

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百五十)

第六章 現代イスラームテロの系譜 (五)

百五十 やすやすと国境を越えるイスラーム・テロ (一―四)



テロリズム(以下テロと略す)の定義である「政治目的のために、暴力或いはその脅威に訴える傾向」(広辞苑)に従えば、イスラーム・テロという宗教に依拠したテロにも政治目的があることになる。イスラーム・テロの政治目的とは何であろうか。イスラーム・テロの標的の多くは彼らが背教者とみなす世俗政権であり、その政権を転覆することが目的となる。

1979年のイラン・イスラーム革命がそれである。典型的な世俗強権政権であったシャイ・パレビー国王体制に歯向かったシーア派のイスラーム革命で多くのテロ活動を経てホメイニ政権が成立した。ホメイニ師は「ベラヤット・ファギー」と呼ばれる法学者による宗教と政治を一体化した体制を樹立した。政権を握ったホメイニ師は次にアラブ世界に住むシーア派ムスリムたちに蜂起を呼びかけた。「ベラヤット・ファギー」とはマフデイ(救世主)がこの世に現れるまでは法学者がイスラームの体制を指導するというものである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakarazuyal@gmail.com